

## 小学部第6学年 生活単元学習 学習指導案

### 1 単元名 修学旅行に行こう

### 2 単元の指導目標

- (1) 日程、場所、活動内容を知り、意欲をもって事前学習を行うことができる。
- (2) ルールやマナーを知り、集団行動を通して実践しようとするすることができる。
- (3) 食事、入浴、着替え、荷物の整理などの経験を通して、身辺処理能力を高めることができる。
- (4) 栄養が偏らないようにバランスのとれた食事をし、健康的な生活を送ることができる。
- (5) 学年の友達と準備や振り返りの楽しい時間を共有することができる。

### 3 単元設定の理由

本学習集団は、小学部通常学級6年生1組5名(男子2名、女子3名)2組5名(男子2名、女子3名)の10名で構成されている。知的障害の程度は中度から重度と幅広く、併せ有する障害は、自閉症、ダウン症、ソトス症候群、心臓病やてんかんなど多岐にわたっている。日常的な会話でのコミュニケーションができる児童、教師の話はある程度理解できるが、発音が不明瞭なため、絵カードやサインを使ってならばコミュニケーションができる児童、日常生活全般において支援が必要な児童など、その実態は様々である。

本単元「修学旅行に行こう」では、集団生活のルール・約束事、公共の場所を利用する際のルール・マナー、その場所での見学・活動内容を学習し、児童の自立や集団生活における技能の向上をねらう学習となるほか、宿泊行事の集大成となる思い出多い楽しい学習にもなると考えられる。

児童はこれまでも校外学習や宿泊学習を経験しているが、そのような行事が近付くと精神的に不安定になる児童がおり、食事がうまくとれない、集中力が低くなる、怒りっぽくなるなどの様子が見られるようになる。

指導にあたっては、事前学習で日程・場所・活動内容を知ることにより、活動に見通しをもてるようにしていきたい。そのほか、「キッザニア東京」で行う職業体験活動の中から、宅配便、スイーツ作りを模擬体験したり、教室にバスや昼食時の座席を作り、そこに座ってみることで当日のイメージを膨らませたりする学習も取り入れ、安心して修学旅行に臨めるようにしたいと考える。また、旅行の楽しみの一つである食事には、2回のバイキング形式の食事が含まれる。通常、配膳されたものを食べることに慣れている児童にとっては、バイキング形式の食事は自分で選び自分で料理を手にするよい機会になると思う。そこで、当日のバイキング形式の食事が楽しめるように、修学旅行1週間前の4日間の給食を栄養教諭の協力を得てバイキング形式で実施したいと考えている。

本時では、修学旅行のバイキングの食事を振り返り、よかった点や課題が残った点を考えたい。食事は生活する上で欠かせないものなので、将来自分自身で食事を選択していく際に、どのようなものをどのように食べていけばよいのか、本時の学習が児童一人一人に考えさせるよい機会になればと考え、この単元を設定した。

#### 4 指導計画(10時間扱い)

- (1) 日程、場所、活動内容を知る。(1時間)
- (2) しおりと日程表の作成(1時間)
- (3) 見学場所の確認と活動の模擬体験(2時間)
- (4) 持ち物とバス・昼食の座席確認(1時間)
- (5) 公共の場所でのルール・マナー(1時間)
- (6) バイキングの利用の仕方・食事の仕方について(1時間)
  - ※修学旅行前1週間の給食をバイキング形式で実施する。
  - ※(6)の授業後に修学旅行に行き、バイキングの実践を行う。
- (7) 振り返りとまとめ(3時間)(本時1/3)

#### 5 他教科、学校給食との関連

	9月	10月
<b>給食の時間</b> <課題> 全体的に残すことは少ないが、苦手なものが出ると完食をすることができないことがある。	<b>生活単元学習</b> 「修学旅行に行こう」 「バイキングの練習をしよう」(給食時) <b>日常生活の指導</b> 「この野菜の名前は何かな。」(朝の会) 「どの料理に入っていた？」(帰りの会確認) <b>国語</b> 「野菜の名前、色」「カタカナを読もう」 <b>算数</b> 「大きい、小さい」「長い、短い」 「見本どおりに配ろう」 <b>体育</b> 「体を動かそう」	<b>生活単元学習</b> 「修学旅行に行こう」 「バイキングを振り返ろう」(本時) <b>日常生活の指導</b> 「この野菜の名前は何かな。」(朝の会) 「どの料理に入っていた？」(帰りの会確認) <b>国語</b> 「仲間集め」「野菜・果物の名前、色」 <b>算数</b> 「同じものを探そう」「いろいろな形」 <b>給食の時間(日常生活の指導)</b> 「好き嫌いをなく食べるようにしよう」 「食べ物の3つの働きを考えよう」 (給食後振り返りカード)

#### 6 本時の指導

- (1) 題材名「バイキングを振り返ろう」
- (2) 目標
  - ① バイキングで選んだ料理を3つの食品群に分けることができる。
  - ② 赤、黄、緑の3色が揃った食事を構成することができる。
- (3) 食育の視点

栄養のバランスをよくするために、好き嫌いをなく食べるようにする。  
 協力したりマナーを考えたりし、楽しい食事の時間を共有する。

(心身の健康)  
 (社会性)

児童は食べることに興味・関心が高く、給食の時間を楽しみにしている。低学年の頃からの習慣で教師が「どれも一口は食べてみよう。」などの言葉掛けをすれば苦手なものも食べ、比較的残すことは少ない児童が多い。しかし、家庭での様子を聞いたり校外学習に出かけたときの様子を見たりしていると、給食では配膳されているため食べるが、自分からあえて苦手なものも食べようとする児童は少ない。

修学旅行のバイキングでは、好きなものを好きなだけ食べることが予想されるが、給食のように配膳されたものを食べるわけではなく、家庭のように少人数で食べるわけでもないため、「バイキング形式に慣れること」「マナー(やくそく)を守ること」に重点をおきたいと考える。そこで、給食でのバイキング練習でも、取る料理の中身についてよりも、マナーについて繰り返し学習したいと考える。また、事前学習においても修学旅行においても「野菜も取ってみよう。」などの言葉掛けはするが、取る取らないの決定は本人の意思に任せたいと考える。

本時では、修学旅行のバイキングを思い出し、事前学習で行ったマナーを守ることができたかを振り返ったあと、今後自分自身で食事をとる場合に、健康のことを考えてメニューを選択できるようになってほしいと考え、そのきっかけを与える学習を行いたいと考える。好きなものを好きなだけ食べることは楽しく、同時に満腹感も味わえることではあるが、健全な成長、健康な生活を脅かすものとなる可能性が高い。児童には好き嫌いなく、いろいろなものを食べることが健康な体をつくるもとになることを知らせたり、専門的な立場から栄養教諭の話聞くことで、自分の食事を振り返ったりさせたいと考える。

#### (4)本時に関する児童の実態と個別目標及び評価

NO	氏名	児童の実態	個別目標	評価の観点	評価
1	A 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>発語はないが、教師の問いに対し、指さしや行動で答えることができる。食品や料理の名前はある程度理解し絵カードや色のマッチングができる。</li> <li>給食に興味があり、好みの献立がはっきりしている。3つの食品群についてはあまり意識せずに食べている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マッチングを手掛かりにバイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができる。</li> <li>②他の児童の活動を受けて、自分はどの食品群の色球を選べばよいか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ食品カードを正しい食品群に分けることができたか。</li> <li>②必要な食品群が分かり、正しい色球をペットボトル人形に入れることができたか。</li> </ul>	
2	B 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>食品や料理の名前が理解でき、話したり書いたりできる。「野菜類」などの抽象的な言葉もおおむね理解できている。</li> <li>食べたくない献立のときもあるが、いろいろなものを食べることが体によいことは何となく理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを3つの食品群のいずれかに分けることができる。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃った食事を構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードと似た種類の料理を見つけて、3つの食品群のいずれかに分けることができたか。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃うように料理カードを選ぶことができたか。</li> </ul>	
3	C 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物に興味が高く、絵カードや実物を見ながら、教師の言った食べ物の名前を復唱したり指さしたりできる。</li> <li>3つの食品群についてはあまり意識されていないが、何でも喜んで食べ、残すことはない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マッチングを手掛かりにバイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができる。</li> <li>②自分の好きな食べ物が何色の食品群かわかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができたか。</li> <li>②料理カードを手掛かりに、それが属する食品群の色球をペットボトル人形に入れることができたか。</li> </ul>	

NO	氏名	児童の実態	個別目標	評価の観点	評価
4	D 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立の中から指示された食品をある程度探すことができ、料理名も理解できている。色や絵のマッチングができる。</li> <li>・給食の時間を楽しみにしており、残さず食べることができる。3つの食品群は意識してはいないが、なんでも食べることが体によいことは何となく理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①色を手掛かりにバイキングで選んだ料理カードを3つの食品群のいずれかに分けることができる。</li> <li>②他の児童の活動を受けて、自分はどの食品群の色球を選べばよいか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食品群の表を見比べ、料理カードの縁の色に注目して3つの食品群のいずれかに分けることができたか。</li> <li>②必要な食品群が分かり、正しい色球を入れてペットボトル人形を完成することができたか。</li> </ul>	
5	E 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品や料理の名前は理解できており、献立の中から指示された食品を探すことができる。絵カードや色のマッチングができる。</li> <li>・給食に興味が高い。調理法や味付けによっては苦手なものもあるが残さず食べようとする。3つの食品群については意識されていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①マッチングを手掛かりにバイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができる。</li> <li>②他の児童の活動を受けて、自分はどの食品群の色球を選べばよいか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>②バイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができたか。</li> <li>②必要な食品群がわかり、正しい色球をペットボトル人形に入れることができたか。</li> </ul>	
6	F 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発語があり食品や料理の名前を言うことができる。また、食品の色を答えることができる。</li> <li>・苦手な料理はあるが、食べることが大好きで給食は最後まで残さず食べることができる。野菜も食べることが体によいことは何となく理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①色を手掛かりにバイキングで選んだ料理カードを3つの食品群のいずれかに分けることができる。</li> <li>②他の児童の活動を受けて、自分はどの食品群の色球を選べばよいか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①食品群の表を見比べ、料理カードの縁の色に注目して3つの食品群のいずれかに分けることができたか。</li> <li>②必要な食品群がわかり、正しい色球をペットボトル人形に入れることができたか。</li> </ul>	
7	G 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品名や料理名はある程度理解できており、不明瞭であるが名前を言うことができる。食品の色も理解できている。</li> <li>・食べることに興味が高く、何でも残さず食べることができる。3つの食品群の理解は難しいが、好き嫌いしないことが体によいことは理解できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができる。</li> <li>②他の児童の活動を受けて、自分はどの食品群の色球を選べばよいか考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを正しい食品群に分けることができたか。</li> <li>②必要な食品群が分かり、正しい色球を入れてペットボトル人形を完成することができたか。</li> </ul>	
8	H 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常のほとんどの活動は教師の支援で行っている。色や絵の理解は難しいが、言葉掛けによりカードなどに視線を向けることができる。</li> <li>・食べることに興味が高まり、これまで食べたことのなかった料理も食べるようになってきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ食品カードを教師と一緒にいずれかの食品群に分けることができる。</li> <li>②自分の好きな食べ物が何色の食品群かが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを教師と一緒に正しい食品群に分けることができたか。</li> <li>②赤、黄、緑の食品群を見て、好きな肉類の含まれる食品群の色球をつかむことができたか。</li> </ul>	

NO	氏名	児童の実態	個別目標	評価の観点	評価
9	I 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話でのコミュニケーションがとれ、食品や料理の名前もよくわかり、「これは何。」などの質問に答えることができる。</li> <li>・給食では何でも食べるようになってきているが、一食の中でいろいろなものを食べる習慣がなく、バランスについての意識はされていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを3つの食品群のいずれかに分けることができる。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃った食事を構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードと似た種類の料理を見付けて、3つの食品群のいずれかに分けることができたか。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃うように料理カードを選ぶことができたか。</li> </ul>	
10	J 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物知りで、明瞭な発語があり、教師の質問にはほとんど答えることができる。一度の説明である程度理解できる。食品や難しい料理名もよくわかる。</li> <li>・給食の献立表をよく見ており、興味・関心が高い。苦手な料理はあるが、一口は食べようとしている。食品群の色と食品の色が混同している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードを3つの食品群のいずれかに分けることができる。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃った食事を構成することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バイキングで選んだ料理カードと似た種類の料理を見付けて、3つの食品群のいずれかに分けることができたか。</li> <li>②赤、黄、緑の3色の食品群が揃うように料理カードを選ぶことができたか。</li> </ul>	

#### 評価

- ◎ 目標を達成することができた。
- 教師の指導・支援により目標を達成することができた。
- △ 目標や支援の再検討が必要である。





【授業で使用した資料】



3つの食品群の表



児童が食品群の表に貼った料理カード



「けんこうのもと」提示物



ペットボトル人形  
(笑顔)



ペットボトル人形  
(泣き顔)



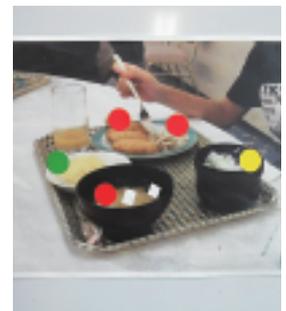
グループ活動で使用した色球



給食時に使用したお盆シート



3色揃った食事を構成する際の料理カード



バイキングを振り返り、  
足りなかった色の料理カードを選んだ際のお盆の写真

## 【授業と関連させた学校給食の献立】

献立のねらい(食べ物の3つの働きを考えよう)

献立名	材料名	分量(g) 中学年1人分	作り方
ごはん	こめ	45	<b>ごはん</b> ① ご飯はふっくらと炊きあげる。
	強化米 発芽米 水	0.15 5 60	
牛乳	牛乳	206	<b>鮭の和風ムニエル</b> ① 魚に下味をつける。 ② ①に小麦粉をまぶして焼く。
鮭の和風ムニエル	生鮭	40	<b>ごま和え</b> ① にんじんは細切り、小松菜は3cmの長さに切る。 ② 野菜をゆでて冷却後、脱水し、調味料で和える。
	食塩 こしょう しょうゆ 赤ワイン さとう 小麦粉 サラダ油 バター	0.15 0.01 1.5 3 1.5 2.5 1.5 1.5	
ごま和え	小松菜	15	<b>かぼちゃの煮物</b> ① かぼちゃは一口大に切り、煮る。
	大豆もやし しめじ にんじん 白いりごま さとう しょうゆ 薄口しょうゆ 花かつお	20 5 4 2 0.8 1 0.3 0.2	
かぼちゃの煮物	かぼちゃ	40	<b>豚汁</b> ① 大根、にんじんはいちょう切り、ねぎは小口切り、里芋は小さめに切り、ごぼうはささがきにする。こんにゃくは2cm角の薄切り、豆腐はさいの目に切る。 ② 油を熱し、豚肉を炒めて材料を煮込み、調味する。
	しょうゆ さとう みりん 水	1.5 1.5 1 7	
豚汁	豚もも小間肉	8	<b>1人当たりの栄養量(中学年)</b> エネルギー 568 kcal たんぱく質 26.0 g 脂質 17.7 g カルシウム 333 mg 鉄 2.3 mg ビタミンA 230 μg RE ビタミンB1 0.60 mg ビタミンB2 0.55 mg ビタミンC 24 mg 食物繊維 4.9 g 食塩 1.9 g マグネシウム 103 mg 亜鉛 2.6 mg
	だいこん にんじん ごぼう 里芋 こんにゃく ねぎ 豆腐 白味噌 味噌 だしの素 油 水	15 5 7 15 7 7 15 3 2 0.5 1 80	
果物	バナナ	50	

学校給食献立例の写真



## 【栄養教諭による給食時間における食に関する指導】

### 1 指導内容

食べ物の3つの働きを考えよう

### 2 目標

食べ物には、健康を維持するための働きがあることに気づき、好き嫌いしないで食事をする事の大切さを理解する。

### 3 食育の視点

食事は、人が生きていく上で欠かせないものであることがわかる。（食事の重要性）

給食を好き嫌いしないで食べようとする意欲をもつ。（心身の健康）

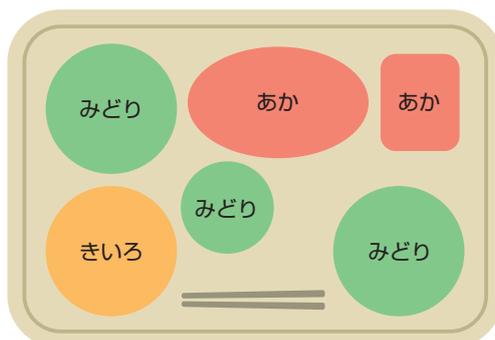
### 4 展開

主な学習内容と活動	支援
1 授業内容を振り返る。	・食べ物、体内での働きによって赤黄緑の3つの食品群に分けられることを絵で表示することで、授業内容を思い出させる。
2 今日の給食の献立が、3つの働きのグループに分けられることを確認し、食べると元気な体でいられることを知る。	・お盆シートの上に給食を盛り付けた食器をのせることで、それぞれの働きや、全てのグループがそろっていることを確認させる。
3 健康でいるために、給食を好き嫌いしないで食べようとする意欲をもつ。	・みんなが元気でいられるよう、3つのグループの食べ物を組み合わせて給食の献立を作っていることを伝え、苦手なものでも一口は食べようとする意欲をもたせる。

◎評価規準  
好き嫌いせず食べようとする意欲がもてたか。  
(関心・意欲・態度)

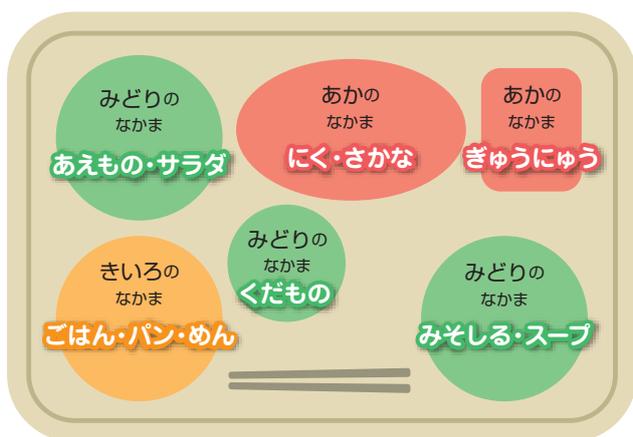
#### <準備物>

- ・お盆シート



ねん くみ なまえ( )

# きょうのきゅうしょく

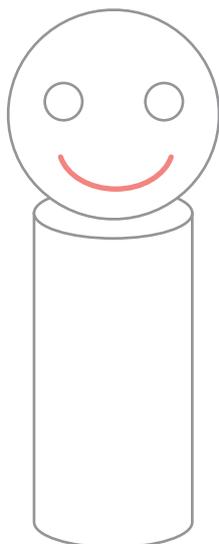


〈たべものはたらき〉

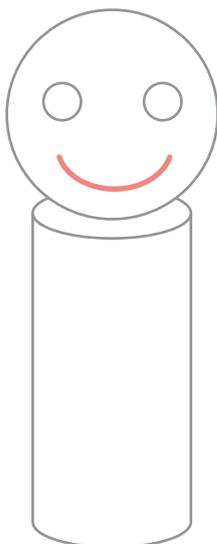
- あかのなかま…………… きんにくだま  
ちやにくやほねになるたべもの
- きいろのなかま…………… ちからだま  
ねつやちからになるたべもの
- みどりのなかま…………… げんきだま  
からだのちょうしをととのえるたべもの

★きょうのきゅうしょくで、あか・きいろ・みどりのなかまでたべることができた  
なかまのいろのシールをはりましょう。

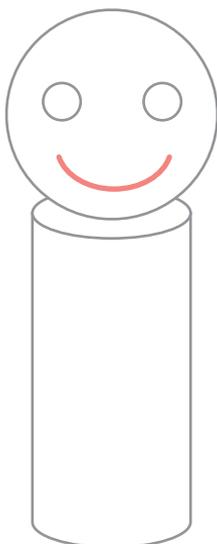
げつようび



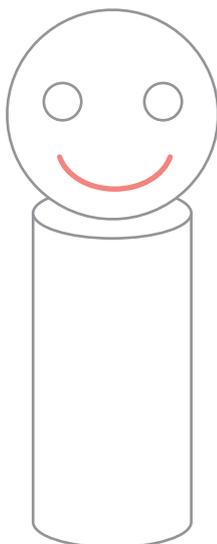
かようび



すいようび



もくようび



きんようび

